



④ソビエト連邦崩壊 三つの移行

- ①ソビエト帝国・帝国の一部→
独立した国民国家
(ロシアは未だに帝国)
- ②社会主義経済→
市場経済に
- ③閉ざされた独裁体制→
国際社会に開かれた民主国家に

ロシア以外の旧ソビエト諸国は 主権を民族に求めた

- 国民国家としての自立、
 - ○グルジア人のためのグルジア
 - ○ウズベク人のためのウズベク
 - ○ウクライナ人のためのウクライナ
- ▼多くの国が新たな歴史を書き直す必要
- ▼歴史にさかのぼっての周辺諸国との対立
- ▼国内の少数民族の問題

リビウ(リボフ)・ガリツィヤ



1939年ナチスとソビエトの密約でソビエトが併合
1941年独ソ戦の開始とともにナチスドイツの支配下
ウクライナ民族主義者 一部はドイツと協力

一部は独自のパルチザン

1945年再びソビエトの支配下

ウクライナ民族主義者は対ソビエトパルチザンを
50年代半ばまで続ける

**1990年4月ソビエト連邦でもっともはやく
レーニン像を引き倒す**

ロシアは帝国・民族国家となりえない

- 「自立した共和国の自由な連合」(ソビエト国歌)
実態は中央集権的な独裁体制

○1990年6月12日ロシア共和国「主権宣言」が連邦崩壊の引き金となる。各共和国の自立

○連邦からの共和国の自立→各共和国の内部での民族問題
ロシア内部での地方分離の動き

チェチェン、オセチア・イングーシ、アブハジア、南オセチア、
ナゴルノカラバフ(アルメニア、アゼルバイジャン)、タジキスタン

そのほか細かな民族浄化、他民族排撃は各地で起きている

プーチンが踏んだ、あるいは踏み越えた民族自決・住民投票の論理

“果たして民族自決という概念は絶対に正義なのか”

ロシア主義とウクライナ主義の対立

「中央アジアやコーカサスはロシアの柔らかい脇腹で切り落とすべきだが、ロシアとウクライナとベラルーシの三つの兄弟を生木を裂くように別けることだけは、やめてほしい」(ソルジェニーツィン)

- **ウクライナとしてのアイデンティティ確立・非ロシア化**
- **西部ウクライナの民族主義を基盤としたウクライナのウクライナ化**
- **しかし多様な地域の集合体としてのウクライナ**